大坂新町
繁昌之圖
澪標

ヲ6
3109

ヲ6
3109

昭和九年十月二日購求

凡例

大坂新町遊廓の事いろはの年中行事の書色里雑記とも云ふ書

まぼろし其後宗十郎の孫清兵衛と改むしかるに其後改めず

享和年類小田川新町遊廓の事

撰今新町といふ所の名の由来と称し郭中考出し町小名の由来と称し郭中

名所古跡年中行事其の他遊廓の

古例ふるく考合洋まること

和漢柳陌の通称称号部のちい

都巷説一見る事しらるる事小要

記しこれ々しい及ぶ異書し仮名草紙

引用書目録に載せるのせどこてしいな文

の連用ふるく初久し

一法華小花挿多のしくつども南津
の揚屋ハ勝ちるいるし法樂さ
中く多ハ出ぬくしかさ多ハも
さを國の法者小ちるしめんがあるこの
奥ハ百名一の法器を別ち繪
一昔ちう面所ハ名ちれたさ夫名のし
しいくもちんぐく法ハへ名を發し
しちるいさ手のの品としちる奥へ
名ハりさの也其国名をくりく出を
たくへいタ事あ
ちハ此文古個其ハ山家ふもき
ちる事い遠く考出し場補を
くるもはさの也

大坂新町細見之圖　澪標

品目

一廓紀原
一新町開基并町小名因縁
一柳陌搭式
一新町橋年暦
一東西大門濫觴
一土地方角考并門々開發

一花街名所古跡
并
蕪嘩古例
越中橋寅初
櫻家敷春無
附櫻井清冷
松家敷枝折
観音裏隨緣
道者撫町拾子掛来由
高瀬庭佳境
山家敷勝景
螢澤水嬉

一花稗年中行事

一揚屋無雙
一同座敷画圖
一茶屋負数
一里詞筆
一太夫品 并 一夜妻雜遊女解
附越中 総角
夕霧 引舟初發
吾妻 松山
一傘印
一長持運送 并 調度通用

一 仕着行粧 并 二日着 三日着
一 身請門出
一 天神位階 并 小天神 店天神
一 鹿子位部類
附 月影汐相當
一 牽頭女郎情 并 藝子風俗
一 籬節一曲
一 匂暖簾巷品
一 和氣称号
一 柔由緒
一 呼迎女古實貫
一 勸進芝居太鼓不打由縁
一 夜見世般系花
一 限太鼓作法
一 價諸分
一 紋日定目
一 方角大田各圖
一 惣名寄人別

一藝者部類

以上

大坂新町
細見之圖　澪標

紀原

○廓の始

当津の柳陌い往昔天正慶長の比
より諸所より婦女を抱渡世のよすが
しを寛永年中小今市中に地を卜
おうし諸所の婦女を一所にあつめ
一廓の門小軒をもうべき也其法木村
市次良といふ浪人故小右廓の
庄屋年寄を被為仰付永くけい
せい町と称今寛延七年まぐるとも
百二十年余少なる也

○新町の風景

あふりうがく新小町くるりーまり世人

新町とうぶ和名抄又ものゝ浦とい中とゝ

新町のあつまりの　香稲庵　竿秋
ふるさとの汐干潟

▲瓢箪町　但南組

通り筋あり其いとぐちあり道頓堀小
路くりん町とゝとゝ其所の一町元和
の比はこゝろへ移りもう又若龍の日
元来伏見浪人よ来村又冷助と
いつる浪人ありし中山人元来村氏
の水乳の人の子ゆく故あり豊
臣家御馬市の瓢箪を信長
不拾を故小名とゝ元和

寛永の比木村をかぞう木村屋又
次郎と名乗廓七町の起文延
元年よい武具ぬぐ場ありし小二
代目又次郎あれ二天和年中小
役者小塚ありく伝屋年号の後
断絶をそしまぐいい新町通をそ
又次市町とゝびもも其後より改く
瓢箪町とゝびもいはまをこれ新町
橋を渡く通りをそ也

▲佐渡鴻町　但南組

天正年長のはじめ上杉方ふもとて
佐渡者子二を帰ゝ云ん和後の地
ゝ小寛永の比今の紀ゝ移り一廓
の門ゝ子三を帰ゝ年号の後ゆく
佐渡号町とゝぶ山西の一町を佐渡

紙屋町と云は事に作波紙屋と並の
玉の家をとりて作波屋町の名紙屋
町とよぶ也

▲吉原町　但北組
片原町也

地名侵々小吉原と云所こゝあり
そなり移を故名付とし又寛永
年中小人の町をこゝに移る又通称
の地を切波屋と云

▲新京橋町　但北組

▲新濱町　月番

されいあり〳〵の波新あり〳〵を
寛永長年中小人と移ふうつる
るり

▲九軒町　但南組

此所揚屋ばかり五軒ある之此の廓始り
こゝに揚屋九軒を取立る町也
かくれぐくよぶ也又揚屋町ともよぶ
根生の揚屋九軒町より今六軒あり
又新濱町より二軒作波屋町ふこ
軒合十二軒なる又こまかもあまき
揚屋なるくいく揚屋の名ふ出を
なは此町年号いまたるけ、世、屋
号とは格別なるく法華宗人の文
証を変るり

▲作波屋町　但西組

往古高麗橋ぐ乃住人小作波屋
太兵衛と云る人なは廓開発の

三紀軒あまりの地を故あるとあ
領し一町一家あるとうよんく
作波屋町と云其波忠兵衛うち人を
小賣波し漸作波屋といつる名目
小名而已小弱まり仕廿町年寄組
うもし代と號年町年寄屋
支配を作波屋忠兵衛と云
三波完吟屋浦市松屋宗甫と
いつる二人へ二ツ割ゆづる又松屋
ゆ完吟屋へ一所よゆづり今い又
一町一屋敷之ものも一緒二ツ小
うれし故今二軒役之完吟屋い
世代ゆづき文ち年野屋世郎兵衛
といつる人賞淳しく二代ゆづき
三波拾主役しく替り廿屋しき世西
年寄享保九辰年大坂大火ゆて

新焼しく宇又新の門系屋右賣
のもの借宅しく居りし仮新焼後
八艇屋家敷なり大屋敷屋あり新
郭に編る九屋敷七町ゆうり

○ 柳陌格式

熱海廓の門付ぶうた徒古
末村屋又次郎元屋新又配の格を以
今小又町の年寄本和を

○ 新町格年暦

西横堀順芝又町翁よりかぶ格あり
往古い廓一方口ゆくゑし其時
分よい仏十格ゆし東西の門市敷先
の後宴人文十二年ふたゆくる
ゆ小廓般若寺の為小移ひしゆ

雑類
うどん
そば
や
ら
茶かーろん
茶かーろん

さ
し
す
せ
そ

廓中やしきをもつて移されい新町だと
いふ則強盜あるを人うを宝暦七年を
八十六年ゝ成るり

○東西大門濫觴

東西大門口ゝ〻〻〻

ゑびきし也これわらく今へ門入ケ
所わり番番所もも

○花街名所古跡

▲芸嚏之書例

往古此新町風聲の法ゝ通をゞ
新屋とゝふ女郎屋あり此あゝしや
の末よ清盛花といふ人世渡りも多
しく武年の若小雑賀の俳さん
調へゝ多く芸紙俳のゝゝ小其ゝ
元朝の祝儀おさゝんゝ其ゝ
次年小繁昌しく後よハ大分限
なゝ其例小まゞ毎年雑賀小
かゞゝを入き祝儀しゝゝあゝ世人
芸嚏とゝふ長名ゝ今ハ家絶
くなし

▲城中橋家取初

寛文年中新町屋年寄と居あ
居たゝし木村屋又帝抱の城中といふ
全盛の女郎毎ゝ揚屋入乃中の刑
限よい見初の花若男女半紙くん
ゞ百人乃小元湯しゝ俳衆名小
ゞく則又ゝ郎屋家の表ゝ九彩
町へゝの乃ゝゝを名ゝきいハ
傾ゝ揚屋入ゝを故ゝ元を郭
く世人城中橋ゝ名ゝ移也今ハ

宝治百首

あゝれ我寄よ仏をうけしの
ゝゝいつゝ生のゝ行ゝん

▲櫻家表玄與　橋井清冷

元禄年中まぐ通り龍小橋屋表
松屋表ゝくゝ橋屋しきゝつい彼
芸嘆と云名しるあゝし屋清玄
家表記小大本の橋あまゝゝし
九軒町あげ屋井竹屋大良清つ
芸と賞治ゝ拾信へゝ毎年玄毎
小橋咲沈井竹屋の橋やきゝそ花見
大信くんだ石して玄振りさ正法元
卯ゝ四月八日新焼して今ハちし
山屋ゝ橋井戸ゝて玄ゝく清みゝ
ゝゝ家屋表いゝ通龍まあり

家集　源之信新殿

ほゝうも花のゝゝ人のひまゝきい
ゝゝやゝゝゝる宮のゝゝ雲

▲松屋表枝折

又松屋表しい屋ゝるゝこれも通り龍
橋やゝきのゝゝ山南例小吉屋屋と
以女良屋ゝ其裏小大本の松ゝ
これも見付小成ゝの樹あゝ
南北の名和ゝゝこれも正法元卯ゝ
の出火ゝ新焼ゝく松ゝゝも今い
ゝゝ

玉葉集　後鳥羽院

松蔭のうゝ宮宿の池ゝ
みゝのみゝゝゝ代ゝゝむへき

▲觀音裏隨縁

万治寛文の比通龍西大門口南例

門徒の屋敷小菜師堂大宝といつる
三宝院流の山伏あり二月四西の堂と
建寺を布ふ延宝の比彼菜師堂
を白髪町くうんせんの地へ移を彼
くうんせんも大宝和尚の子孫不ふ
右門口由例の家敷を今所の人
し呼んぐくうんを裏ふ云

▲道者撫町扨子掛来由

乃先撫町と云い親王町東の門ふ
一丁目の南へ入撫町へ出る乃先
く山撫町和泉の見せ付ふん
ぞやうもる故ふを名を又扨子掛と
いふ東の門へ入る北へゆき新
京橋町の北へ撫町を云子掛い
和乳女郎の見せ付のもいあり

の家小今小玉つくも板の塀を色
ふ一日さ紀の乃ぐき板小似ふて
俗よ扨子掛と乃名ふ

▲真瀬庭住境

吉京町の東小ふる瀬屋ふ乃ふ東屋
の庭家乃築山いふく絶系
ふ乃ふ乃ふ云山所よ来ふざる
しいふ事ふ小しふ多和の庭ふそあり
しよ享保年中ふ移ふく今所

▲山家表膳景

吉京町の西の湯よ茨木屋孝所
といつる女郎屋の長あり其絶
ふる庭乃家水築山樹木充石城乃充
数寄屋かうしい庭表い中小おふんど

[illegible]し花やうるう年と
[illegible]享保二戌年に記あり
今いるし

延文百首　為乃女

世のうさをかへくいふもうきん
いうるは山のあしもとも

▲蛍沢水嬉

又六十年ゝ[illegible]ようの佐渡号町妻
[illegible]の際へ家くの庭掃を掃そて
掃ゝあゝ[illegible]石の廊[illegible]作りく[illegible]
ゝゝへ散乱しく[illegible]清田の由緒を
おもひ出[illegible]めい廊中の人く詩
其比より出貧[illegible]ゝゝが[illegible]
[illegible]おびたゝく[illegible]ゝ大[illegible]

もいでや見給へんと揚屋ゝ毛氈を
[illegible]作[illegible]夜中[illegible]妻
[illegible]ゝ水[illegible]
[illegible]夜の一興[illegible]
[illegible]の[illegible]ゝ中く[illegible]
[illegible]ゝ小今二つの名江
[illegible]ゝ[illegible]
の基[illegible]

●花押年中行事

正月　廿里の猴ひ[illegible]
[illegible]ゝ大[illegible]
事[illegible]用地[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ横町[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

二月　初午二ノ午廿二日彼岸中
竹里の役者ども来て振りきるる也

三月　毎年三月三月橋きうの法
うり芝おもう初花をと通給過て
わくさをみと賞するの橋をとて先
山吹或い牡丹芍薬百合菖蒲竹
夜菊の時節すぐ夢見るるで振
りく一興也

十万堂　来山

花咲くに死を忘るおいら
病の邪

四月　八日花橋あぎりき也

五月　門松の役者通給ふのぎり
をとて男子も家に居宅のうふ
うを忘れも町偏せ所也用地乃
さはあげるるざおを忘く授町を
うで先隣町いの面をかく振し
役目をく法者入はどよる振し
六月　南月中い法永の中被あて
うまき竹里の群集中ある所の
祭い化法天皇ゆく社一日ある也
ぎくろ町ゆく球の外の振ひ流
人従授て元海し廣中社大役目
ありう年ふう神ろあて出くらかの
おひくし
七月　七夕乗るる事振し
けいせいの大哲ほまや　移竹
あまのり
例年十二月七月何ろ又ツ何まぐ

聖堂云の事和市ゝ東西の門内
通筋の西側町小店をかう商
出所のゝ内縁他あるも賞人
来り賑をそへしすきゆゑ
ゝり毎ゝまぐ大役日ゝ月たま
踊ゝとゝあり新町大まま踊と
もゝう仕事ゝ踊のゝも紙和のと
踊ゝるゝ能流ゝ事くゝれも
例年ゝゝゝ定ゝゝ年この
ゝゝ僧ゝ事ゝ或い町ゝ大原
ゝく町踊の事もあり又先年
伝波屋の町ゝく踊場をかまへ本ゝ
を張り宮一人ゝ踊ゝ一人ゝ揚ゝ
ゝ料ゝく踊入用をまるゝ
事もゝけゝれい宮ゝれ氣波
ゝゝ人中弱ゝゝそのち

通筋ゝく寛保二戌年廓の西か
ゝゝ場をかまへ女郎ゝゝ踊ゝの
世話ゝゝ踊場新町ゝ揚屋楽屋
ゝゝゝ見ゝいあげ屋楽屋ゝ
ゝでゝ見ゝど七月十五日ゝ八朔
まぐゝく供方ゝく盤百目
ゝゝゝも又中弱ゝ
又大ゝゝ事あり八朔まで続ゝ
弱ゝゝゝど二日ゝ秋のあれ
を初る事をむやゝある大原ゝく
揚屋住家ゝおゝく廓中の漆
ゝる女郎を踊ゝど揚切ゝあゝめ
住家踊を僧ゝ事也今ゝ
大原ゝく大ゝせの住家ゝ
ゝけゝやゝる事年みも及び
かゝゝ

又九年子あの年小い廣中あぐふ
燈籠を注おし紙細工絡細工など
さ海くくを紙をし仕々れども山内
風雅なるものあり久鎗りおちろ
かくを信仕出しものちりとて合く
やくくく

八月 名月小女郎ちう宮へまく
おくして枝折おと事をの花美と
をし 或ハ市所車八新やくく新
おどさ海くのおとしはきふ落葉
ふくくき稚くの遣り初めくはめ
くのい蕎菓子又いの酒さうかあるひい
紫なるよ仕出くくくどろあれ家真
あるるゆく云ゆくくを迎ぐぐし

九月 後の月見八月の格式よ
月ど又依所の蕎あるく高月中い

大敬日迄六月の中後と門日のるかて
くりくい奥の敬日定まりしる迄

秋の暮男ハるるめ
ものなるい

推句 方磨

十月 麦めるの稚し揚屋い
稚ふふぎりきるく四新講十夜
くくの勿論く

十一月 六月敬日をくくくくくも取ら
家くくの燈掃られ敬夏

室晋齊 其角

燈掃くこ麻こ来い
女こ房めたくしや

十二月 年くぐめ家くくの餘作さ

部分をそれは別しく大坂日本橋廓
中の大坂中く繁昌しかしこれを云ふ
おもむき其余の数百の奥省略
作る

○揚屋無雙

諸国ふくろとといふるものをみし
とりてもこれ高津の廓をもく賞活
あり扨は此地乃揚屋小勝もるい
おもしされいまの大坂道の今を云
小京洛京の女郎小江戸吉原の
張をもくせ長浜九山の衣装を
ものせ大坂新町の揚屋をもてあそび
〜といひ雪〜門掾せん賞活
〜くさるる〜拵席の粉ひんもも
いつそうう唐土あく和楼をいるも

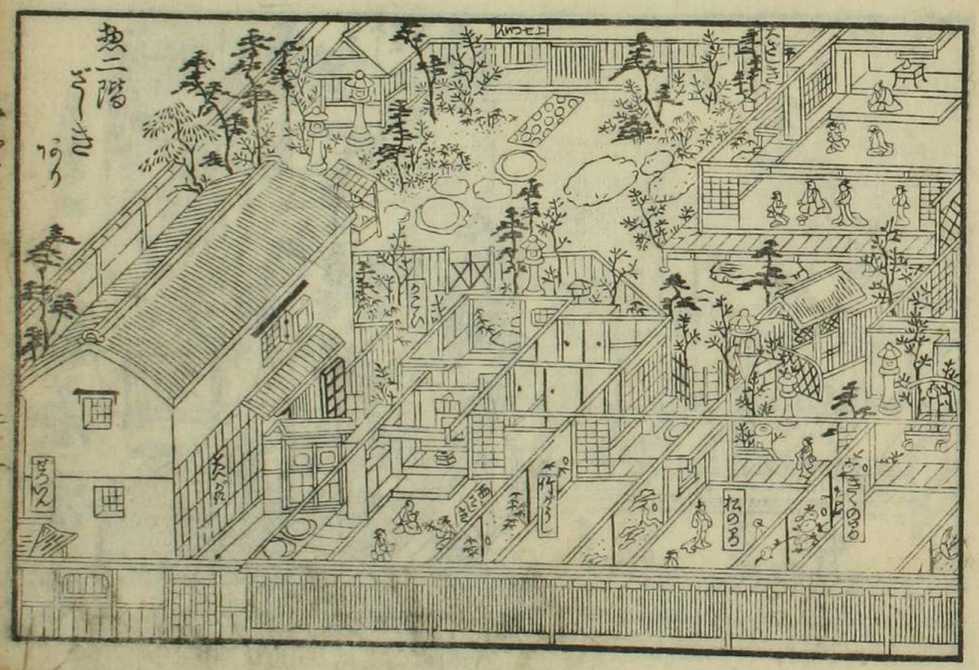
かくいある中でとおそく居る水楼と
いつもは所よりひくう西は海を塩へ
東は川をたるびきゐ北は堀をとも
そびへ山の数系とるべ書院庭
の面のそくは中〜言語ふのべ
年ふもなびくそくれども右のつぎみ
揚屋産表と百分一の絃管あるもそ
主人余の揚屋い事解繁故絃管あ
を余のあけやものこそ右夫を始
いづれも茅屋の茅屋へい右夫い句編
天神を始び高津の揚屋新敷宝
おく依く年〜新敷増減あり

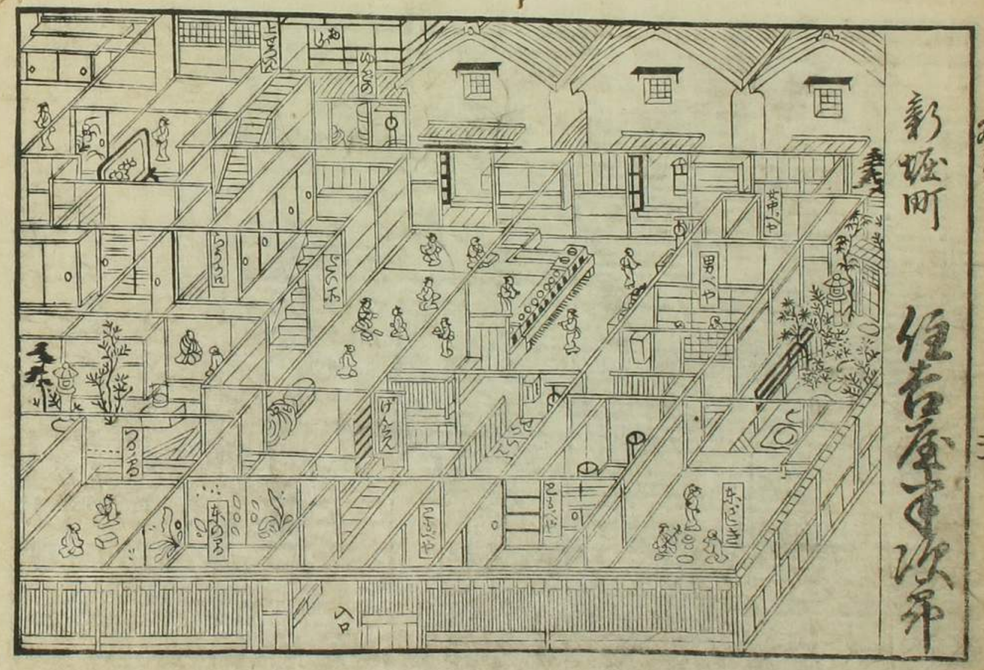
九新町井筒屋もて　沖鏡弁貝押

おもむ〜やうな情の高もんるよう
みくそあさの色の極こと

中ノ口
入口
表二階
だしとあり
ろのうひ

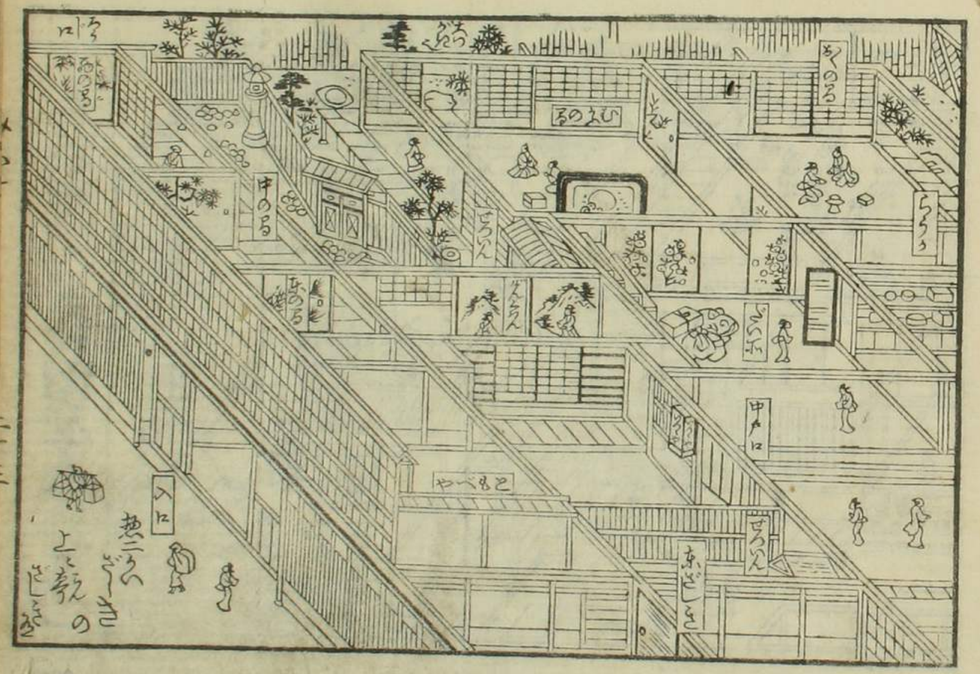
新堀町
大和屋吉郎兵衛

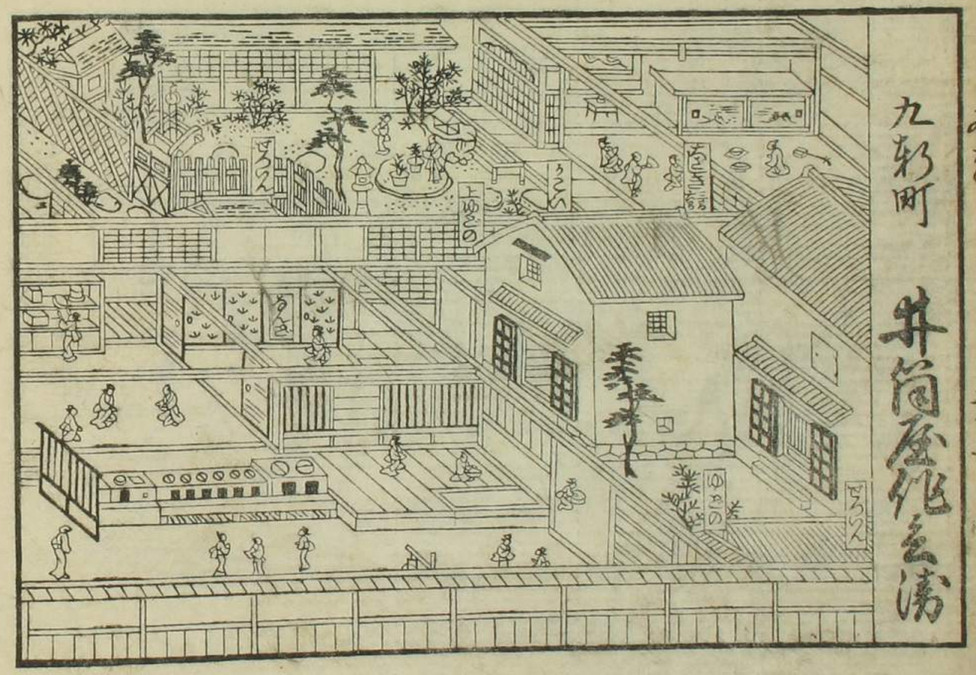

奥二階ざしき


彩姫所
但右屋敷次第

九軒町
扇屋
大どうぐ
おとり
のさや

入口
中戸口
ろうか
ていど
ていど
ていど


入口
熱ニくいぎーき
上と乾のぢーき

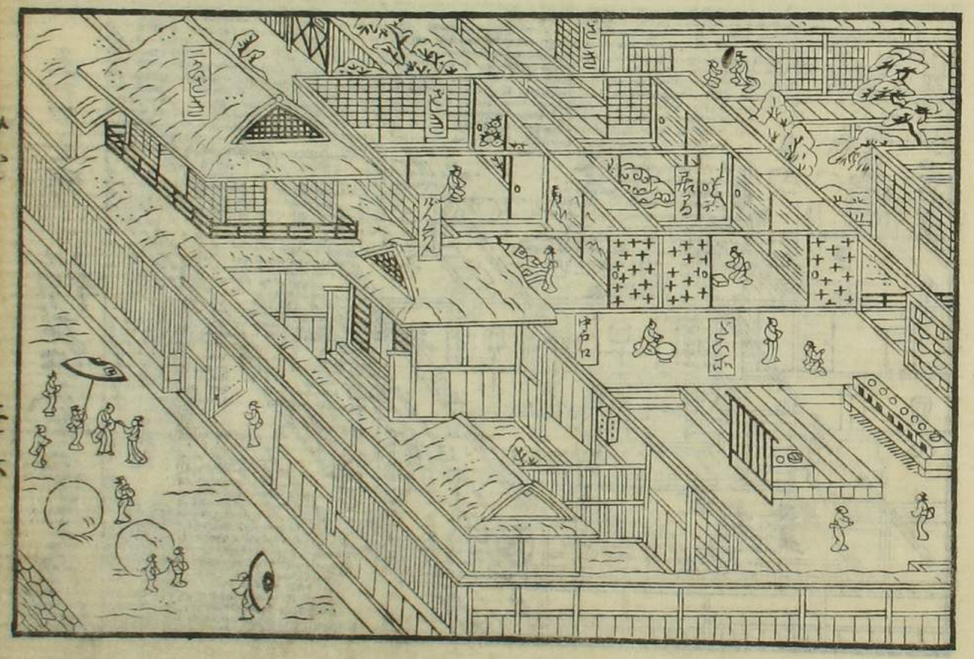

九彩町
井筒屋元湯

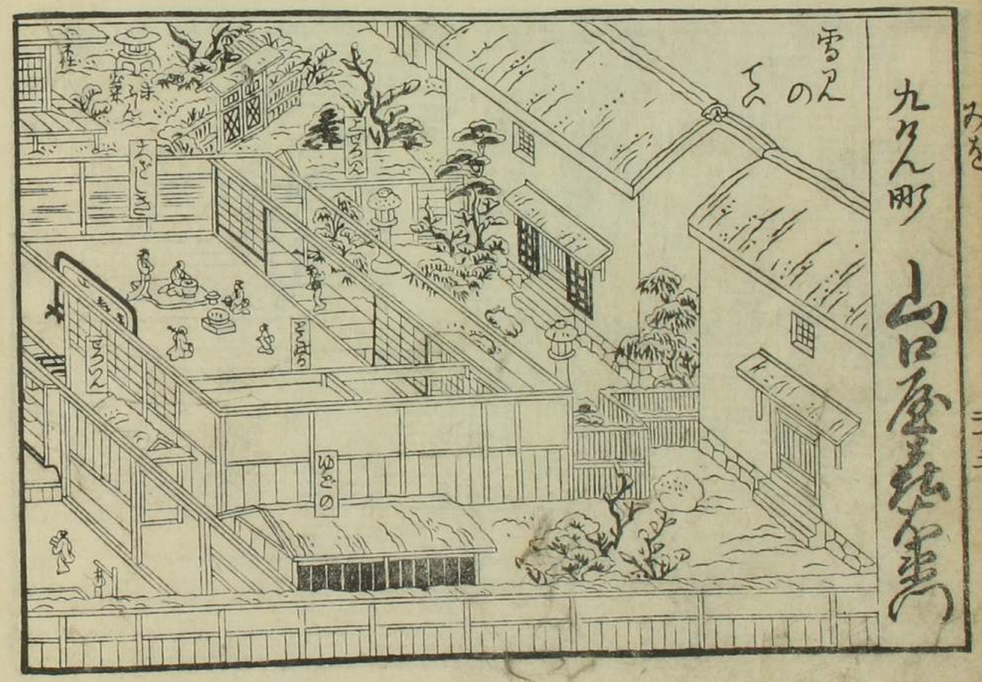
九軒町
表田屋敷之図
せっちん
ゆとの
きとね

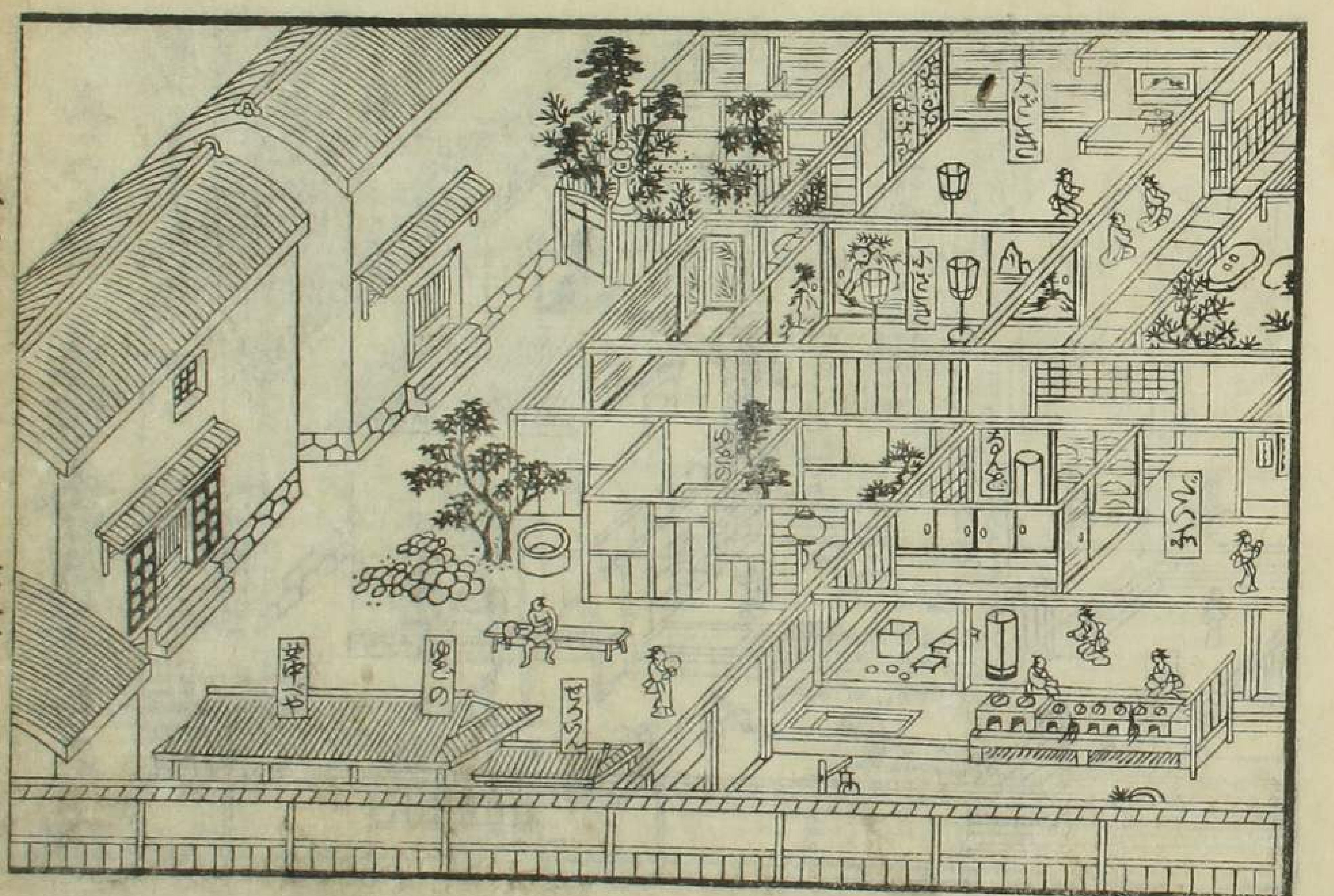
中ノ口
表二階どき
たり

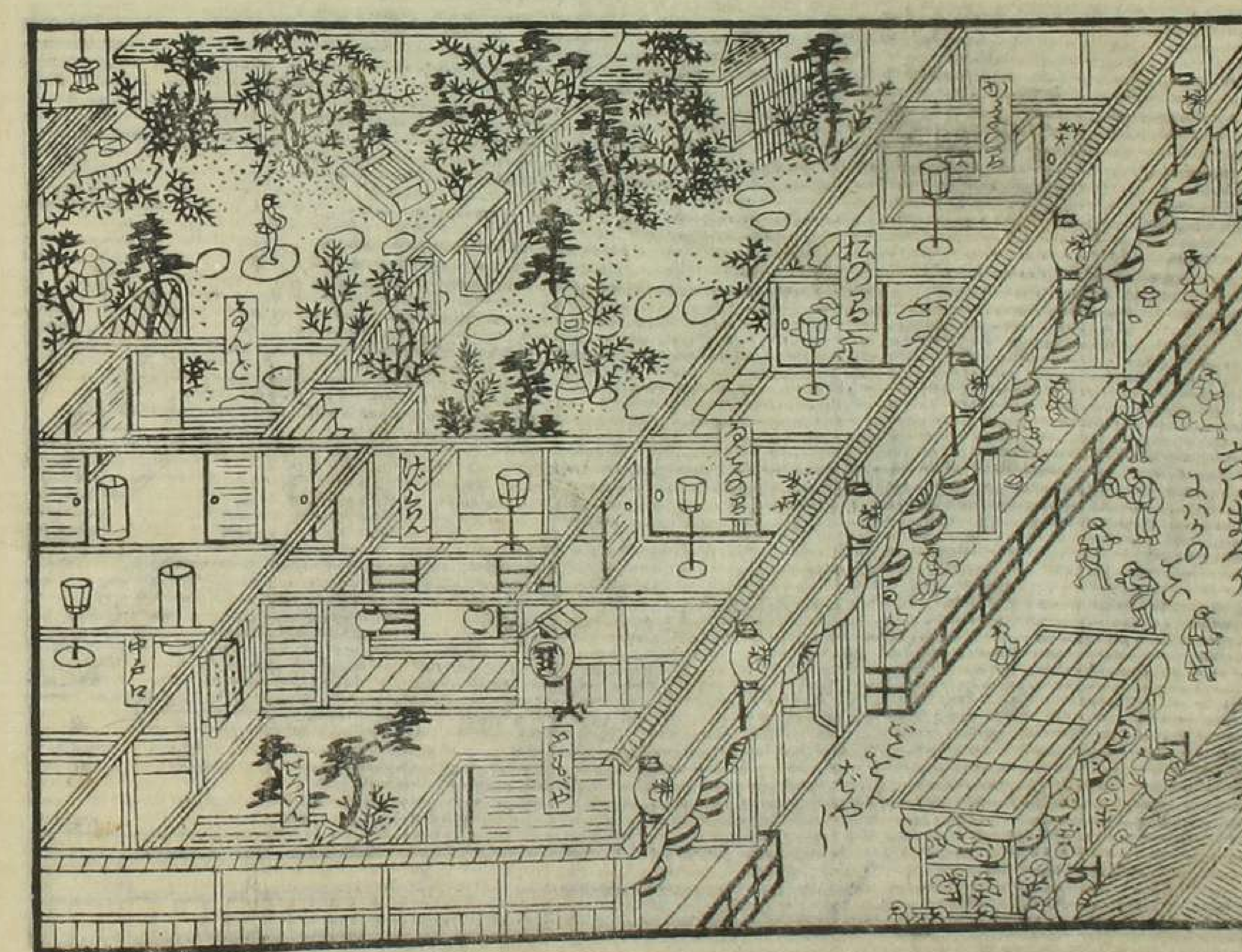
入口

九軒町
紅若屋長四郎

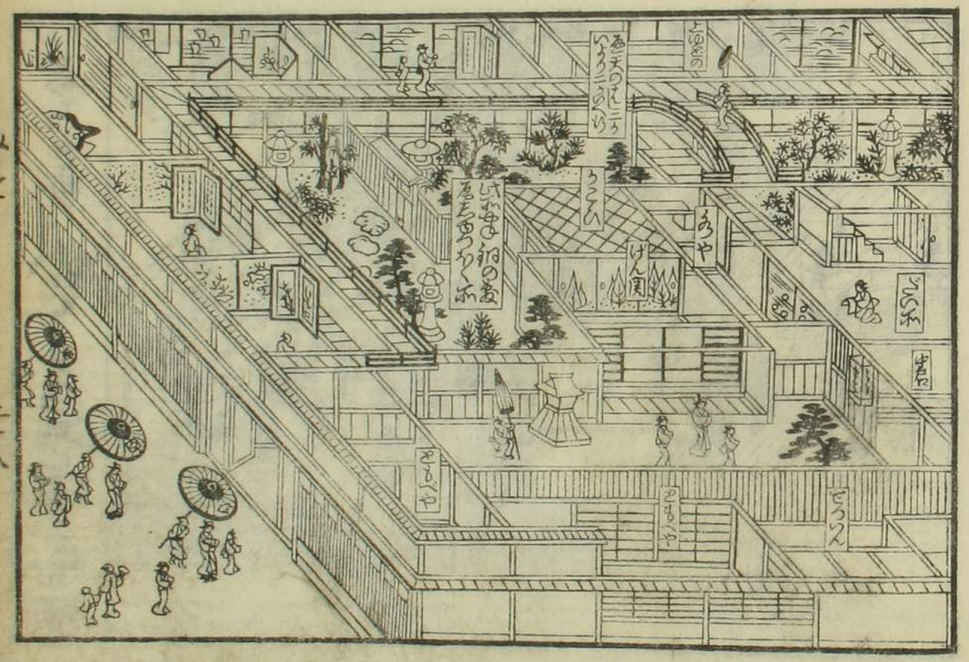


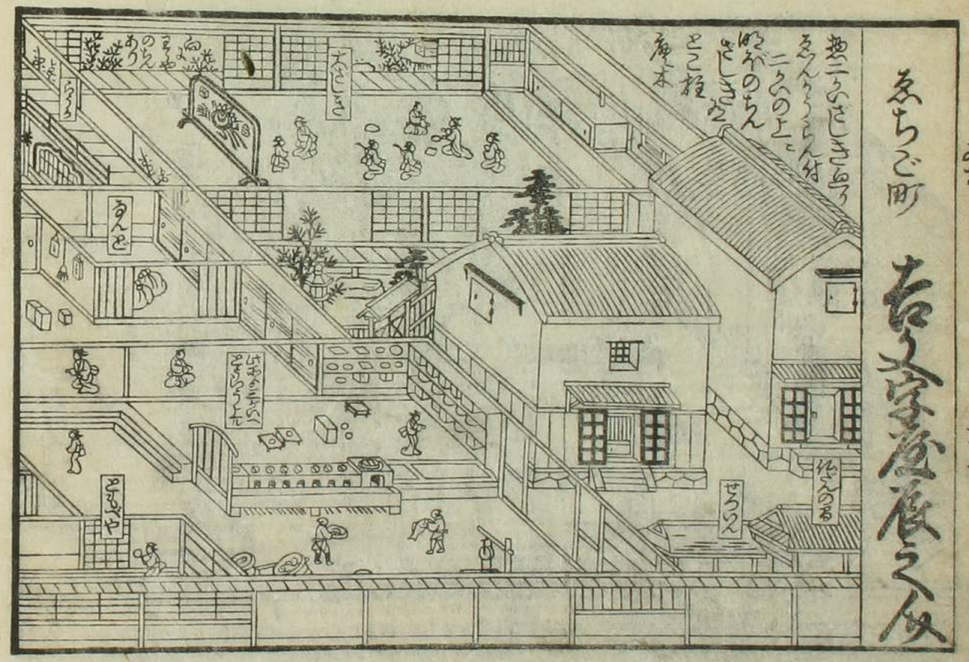

九ん町山口屋藤兵衛
雪ふの
ふ



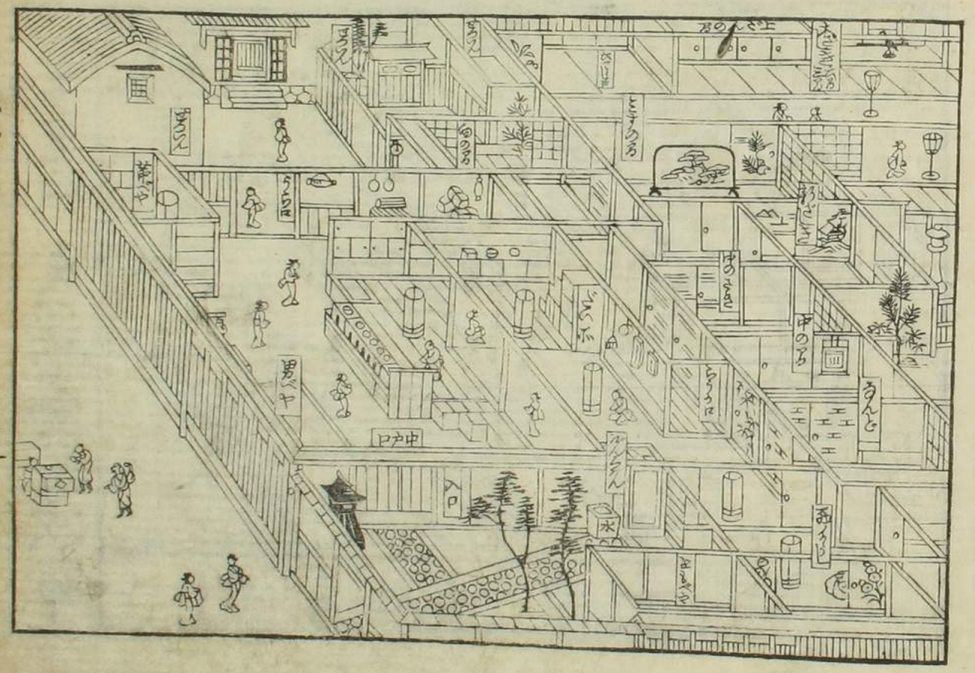


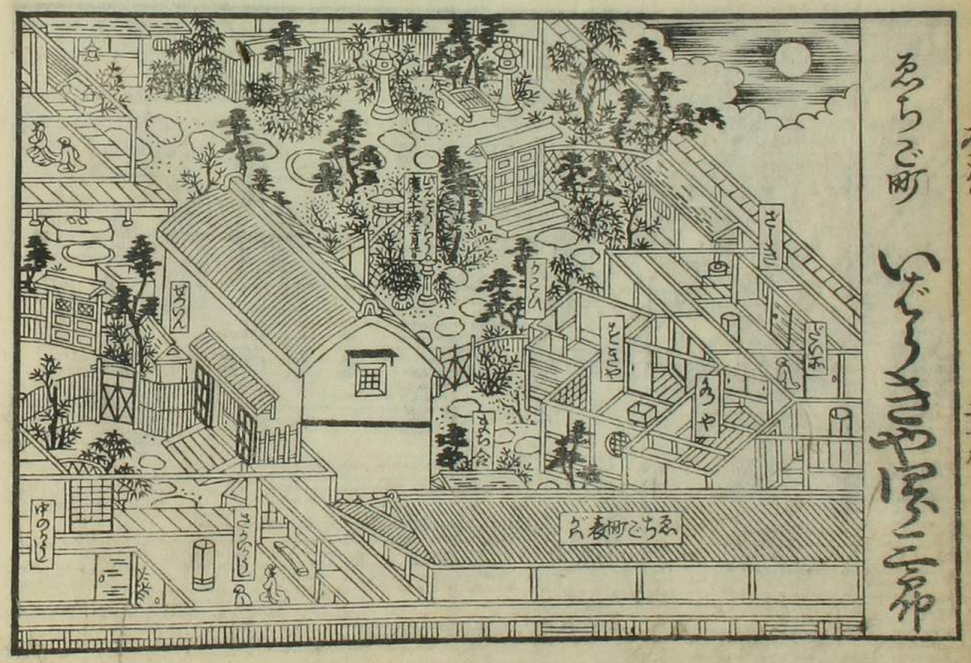
あちご町　住吉屋平兵衛

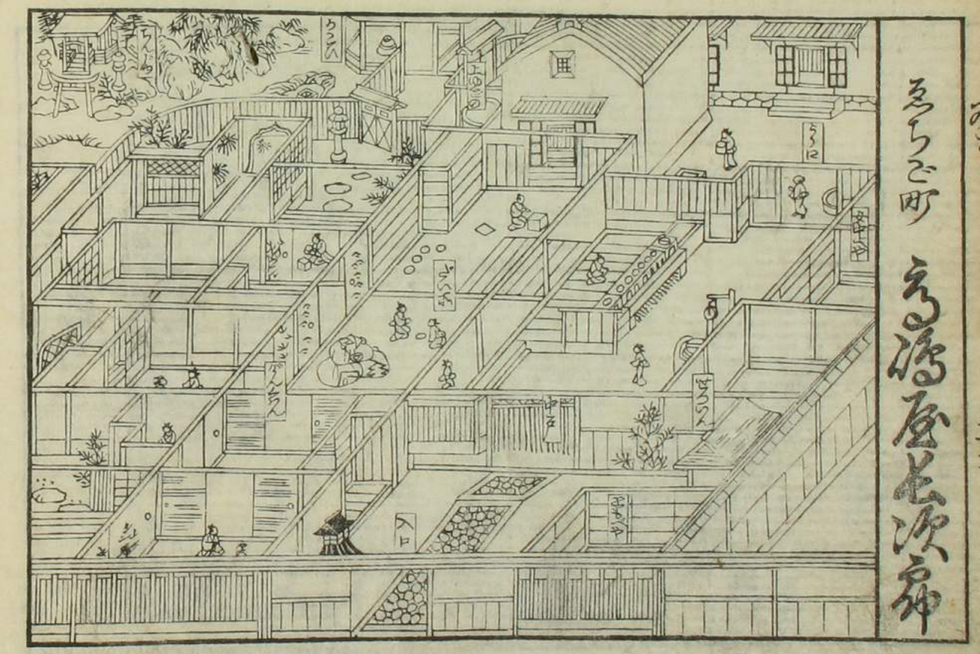




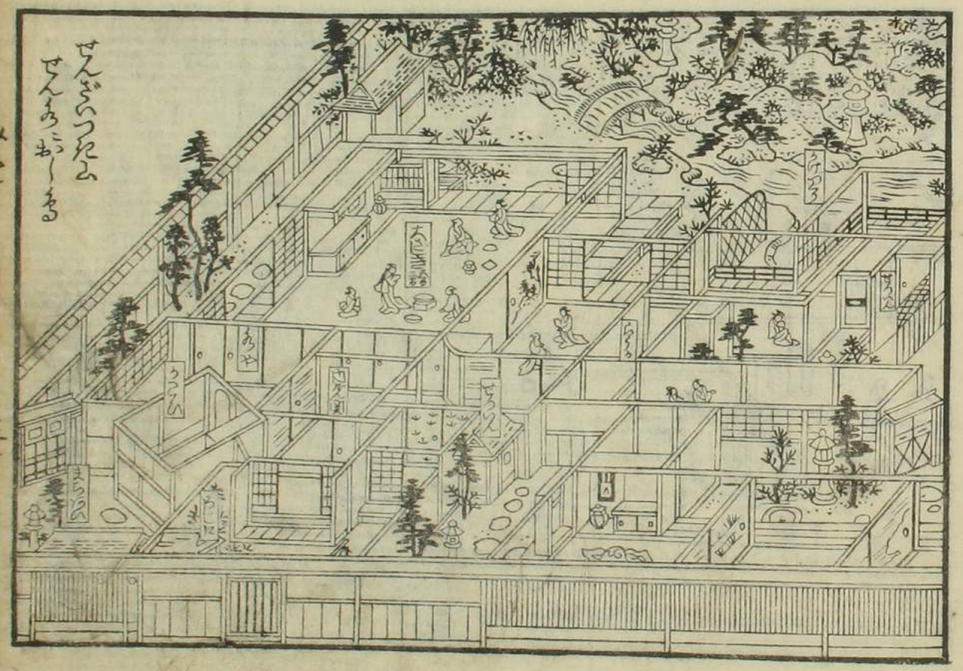
本ちご町


男ヤ
中戸口
入口
水

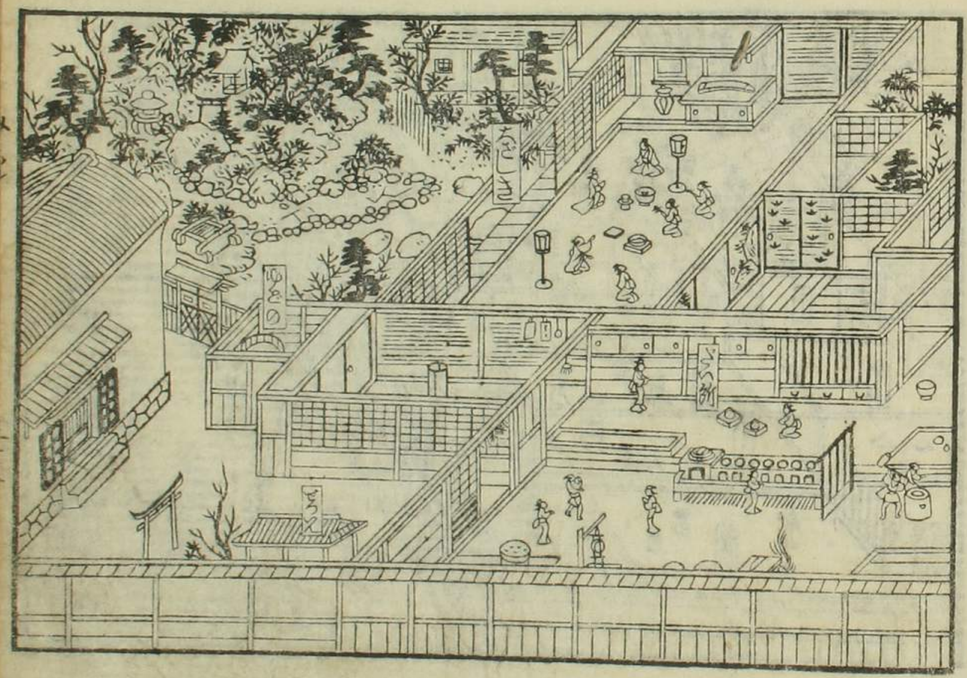

ろちご町
いぢくさやくこ三郎
裏町ろ

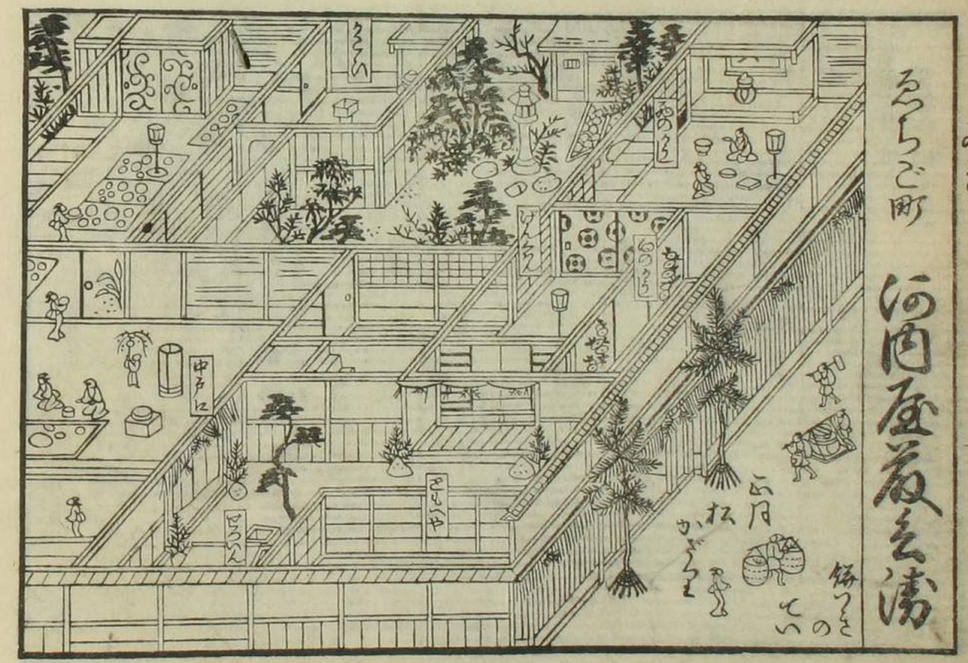


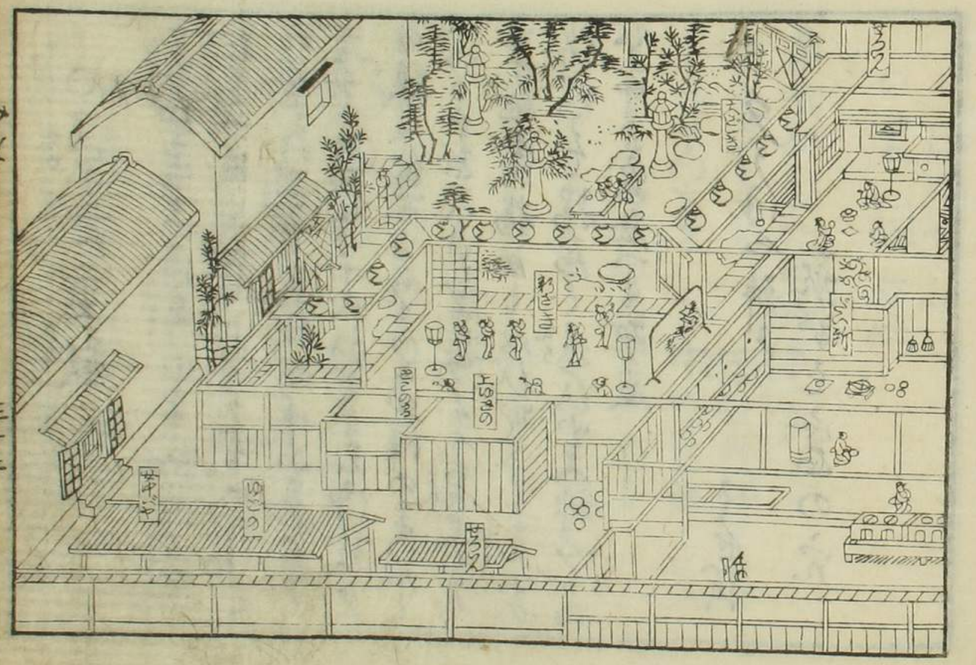
ろうそく町　ろうそく屋太次郎

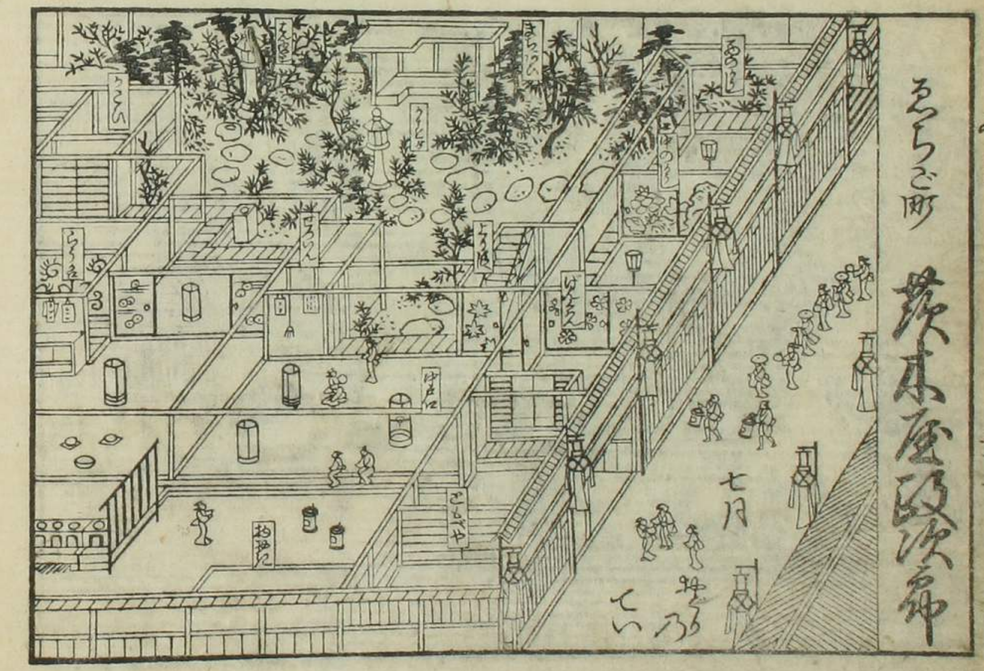


せんぐすりつくり
せんぐすりやしき




ろうちご町
河岡屋長兵衛
中戸口
ぎんいや
ふ月
松
かぶと
みき




ろうそく問屋
七月
七い

○菓屋員数

菓屋唐土の通号の事 加賀一原
和員一日ゑ新町中小菓屋
のせ〜れし墨を新町中小菓屋
いつるい知合ゑ十ゑ知ゑ知ゑ敬免
の様く他所よりぐひ通津の菓屋と
いつるいこ志大きなる撰ゑてゑ簾なる
事他ゑの揚屋も及びかさ〜九ゑの
作法ゑて揚屋く遠ひ小天神ゑ下の
女郎ハ菓屋ハも知る迄

ゆうぎや辞ゑく　ゑせ紙

新おかを忍の宛

○里詞笠冊

吉田屋といふ揚屋二軒ゑ
・金六方を　浅野の新姐ゑとゑ
中の兼姐ゑくゑ
・表ゑつ方と
いぐ〜き屋といふ揚屋二軒ゑ
・白帝こ帝方と　ゑこ町の新子ゑこ
・紅淡帝方と　新宅のごと見ゑ
ゑいぐ〜き新ゑ
ゑみゑ屋三軒ゑ
・表こ帝方と　新すみのえと云
・長ゑ帝方と　中すみのえと云
ゑ〜ハ長世帝西の方小伝吉屋
新宅ゑ〜くゑ
のえと云ゑ二百九軒町
・和吉方と　ゑこすみのえと云

・京屋長兵衛つ方と　こやこしよ
又三朝屋しいつる家伝の物もあれども
・三郎兵衛方と　茶あまぎやと云
・宮郎兵衛方と　西あまぎやと云
いづれも風雅の人名を呼来る迄
今い山茶の名作多く家名の称
京都おのゝ通用するゆゑ著く
のゝ名ゝ風雅みな実名にして呼きき
ものの也

○古史品論

▲一夜妻の説
▲花女の解

鄭女郎の四人ふたえびきものを
古まゝ格とし初潮の通号の事い
一月ゝ斬るくらく毒ゝ前
ゝ格女と一夜妻とふ号あり

古老の口伝今も如在といつるい
北也又歌の詠よ俗慣ゝ一話もれ
格女也

富士見客合

一・依之野上のゝ茶屋
もゝ人のちゝを

定家卿歌

といつ所を月ゝ鄭女郎と実ゝ
作ゝ紅長門ゝ海ゝ花よ
矢橋ゝ名ゝ古俗の名作ゝ
山宮の格名花のうゝ名ゝ
ゝ行ゝ紫贈　秋ゝ紅女
ゝ自ゝ潘安仁が第妹ゝ
ゝ二列中　史の妻妾ゝ
下畧
又関の下の宿とゝ名れい色と称ふ宿

住民の人を宿とし、[illegible]
寄安いをとゝめ、[illegible]
へしちゝ物の[illegible]を旅宿の一夜の
夏ふむ[illegible]び生涯のゝれこを住還
の法人の[illegible]下畧
田の宿の[illegible]大孤の[illegible]川の[illegible]
なゞ[illegible]こゝを社一夜[illegible]
おゝゆき[illegible]
[illegible]べき[illegible]君[illegible]
[illegible]唐[illegible]遊女[illegible]
日[illegible]

紀竜[illegible]女　有家朝臣

永のゝちよさ[illegible]
うゝやむ[illegible]の[illegible]
と[illegible]

[illegible]都は水[illegible]
故なし高津の水[illegible]
[illegible]の[illegible]
川口[illegible]
[illegible]
[illegible]

雲おき屋さんハさもし数帳

みゝゝゝ廓の　あまゝ
今ゝゝゝ　なるしく

牡丹いつたんこそ沃るゝ

ふ雨やいとしねゝと惜いこき　きんゝ

抱の幕ゐるを　もろし

柳まけまきのおこことれるゝ鬢

ゝゝいこれを雲と今もおくれゝく

のもゝ抱ゐるゝ夏のゝあるやゝい

宮へ行ゝゝゝ高津のたゝ夫といゐる

ゝのい中ゝいゝゝへの拾君ゝゝも

おゝゝゝゝめくたゝゝ押傘あり

天神ゝゝゝゝ傘いゝゝかけゝゝたゝふ

限ゝ迄又いゝへいゝ引無ゐれゝる事ハ

ゐゝゝゝ

▲夕　雪の朝　年　引舟初夜

新柳町を洋人今ゝゝゝ原ニ新たつ

といつゝ浪人いゝ永鴻原の門廻ゐ

の長ゝゝゝ今ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ家新ゝゝ今一人の林又京帰と

ゝゝゝ人ゝゝゝ門廻ゐゝゝ女帰ゐ

ゝゝゝ天ゝ年中ゝゝゝゝゝ

扇屋世帰ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝといつゝ日ゐ拾投ゐ

ゝゝの廻中ゝゝ保合

あゝゝ大坂へ引紙ゝゝゝゝ

廓中ゝ決ゝゝゝゝゝゝゝ

ゐゝ故ゝゝゝ二百ゝ大坂へ引紙ゝゝ

比い寛文十二子年也ハ夕雪降ると
いふ事大坂中の沙汰まくくふいたる
時分いたるかと毎夕くれの見物
おびたゝしく夕雪ハ勿論京女郎の
下ときふ事を作りて西津名和の
まぐき節を分て諸人廓中へ入せて
揚屋の招ひとなりかくの事
ちかゝ京女郎の名いと高く
なりし中ハも夕雪ハ小指まて
美艶なる事諸よ美著の者を
含るがごとし其比ハ其ときてやしきる
其上万芸ふ通し紀義太夫明石語
ふのべくさしと或書記ふ人結る
金盛自ふまゝ一時ハ方しの揚屋
ゟ大臣のまゝき繁れいあまり
ゟ毎夕毎夕佐女郎と

一人ハ揚くを連あるき
法方より一時ハ宮参る時ハかこむ
女郎をさきのあげやへ法りて社を
招せ盃其夕ハ来りて社妻
を見合又其夜人紛法ゟ指
ゟ地まゝ高津の古ま織
元ハ法仏ゟ引女郎を連
ゟ信事なしハ夕雪ゟ引西良
と一人京連るゟ元ゟ
金盛の果よあひゟ夕雪ゟ
ごもまの命ハ肥もなきものゟ
延宝又年の秋の法ゟ京家
醫療ハ法ハくもこい人ハ甲斐
おく半信を法ハ大法秘法
を高ゟ也ハ高ゟ法石の
仏神ハ祈ゟ天命の

浪りや翌延宝六年年二月六日と
いつ頃より病床小死を河の人ちしむ
事松を離る頃る夢がたりのごとく
かくもみまじくれば翌七日西方町
浄土寺小墓より法名
花岳芳春信女
と号し今お浄土寺小弥の石塔あり
羽屋一統終ぬ年国を牧久る
也

源氏物語に
山里もあれをそ居ふまりよ
之あんくもちる紀少伯しく
羽屋世郎兵衛二代目をあつぎや
三郎兵衛と云ふ代ら限くあ続て
今の羽屋弥三郎あ家

元隆はまた郎
家郎あり

茨屋行長
羽屋久吉　伊の波屋戸
といふる吉井の作りあと伝行れあつ
こいつる行くもなきまく伝説而の
四小伊波の大屋といつるとる伝伊波の
大屋とさまこいく由家ある人と伝の
大屋小大坂伊波屋墓くく大名限
の人あり伝久吉に云く別深病中
も祈の外深切ある世話をとるく
しく孫くるぼうる紙くる
国くか弟くくるで別れ新町揚屋
吉田屋志伝つ方の家ありは
こ伝くぶき芝五の立侵入祇坂田
茨十郎四年二月三方ゝ久吉方

[illegible]の四月[illegible]紙まて別義屋
伊勢や義十郎ちりくけいせ買の
狂言して大よう[illegible]円年ホ右の
夕房狂言と世度おし翌年三月
二日うまさ夕雪一周忌として狂言
をあし[illegible]こ年[illegible]又七年[illegible]三回忌
十七回忌ちくくう返しし延宝六
午年ちう坂田義十郎死去せし
宝永六丑年[illegible]夕雪狂言を
十八度生きうちちくく大当りあて
あるしこそ生金くく雪ゲ感懐
と義十良ゲ[illegible]あるやし世年委い
耳芸集ま出そう

夕ぎりゲ屋まちふ　作冊　鬼貫

生塚い柳ちくくも
あそれちう

延宝六中末村屋又八郎抱小紺中
[illegible]ちう大文字ちう[illegible]色ちう歩ちし
けちま文乃中の[illegible]郎い廊中ん和乃
くんゲ柳ち[illegible]ちう[illegible]ちか
いふゲく[illegible]の揚屋入ないう屋ちう
ちう乃ま柳ちか[illegible]ちく通りしう
柳ま名ちあちし程のるく又ある府
あげやちく我れちう名風ち名
つくんくちう[illegible]下常ちくくゲて
つくんくちう[illegible]海見苦しして俄ま
おりし付湯昊のちうちめんの三布
をときちくるしちま細ちてちくし
ちう[illegible]風ち紺中禅ちう紺中
禅い紺中國ちう[illegible]ちう[illegible]ちう[illegible]大きちる

信説曰、諸よ其はの大臣はいとろとし
の意法文の紀樂もかちのふまどと
北ーやうまと其外山ちまふはき
さあ名の祈りう国服あれも
ま鰤きゆくちまも墨に

▲あびまの事

佐渡嶋ふ二高家代嘆薫ふ
作 汝 絵
かくのおく国ありーゆふ
ぶりふ初しや海ふ墨屋
く泉号小呼びーも古代ふ町ふそ
い佐渡嶋ふ初古屋ふとふるり
宮人夫年中山家の抱小書まあし
へるちまあり城中夕方寄あも
ふぶかの金感ふそあり墨嶋
すぐれ天小仕ふる其ふ系行一通い

いふまふ小通ふ法の紀家
祇一ふまゆるまふ多ふ其中小揚屋
出ず村小坂ふ系ふ其ふあふとふるふ法人
ありるあるこき山津ふ多りあびま
のふ石ふまたひれ九軒町井筒屋
ち家ちつぐふ多ふく山あびまふふく
わふくふ初しふ二夜是ふ多ふ
ふめふれり別法ふくふ揚屋の
あふび井山屋の屋ふを建也し
やりふ山大臣ふふつ定孫三ふ柏
ふそふふるふ家ちつぐふ屋ふの
計ふくしおふど柏のふるおを折ー
ふふ柏の家造年ふも及びふ
山井山屋ふ家ちつふふ揚屋ふ
ふふの強ふふふ今いおしふふつふ速ふ
のざーきも強ふふ上の泡ふ消ふせふ

大原山の村名を世に山路と名づけ
とぞいひかつ[illegible]其法師も[illegible]
ありしまや[illegible]あばま法師
山路の名を[illegible]
そんつこぐ[illegible]せこ三百年[illegible]調ひ[illegible]
其比女郎の死の代三百年といつるハ
[illegible]今を千金の憂う
もすそ[illegible]かりし山あばま坂上氏よ
[illegible]後[illegible]
まれ[illegible]れば

身いまわそ山いこやこ　名ハあたゝ
のなりはめ[illegible]　山なの里

[illegible]今ハ橋津河[illegible]
山なれ琴ハ作の一軸伝来[illegible]

[illegible]　松

玉所　加賀

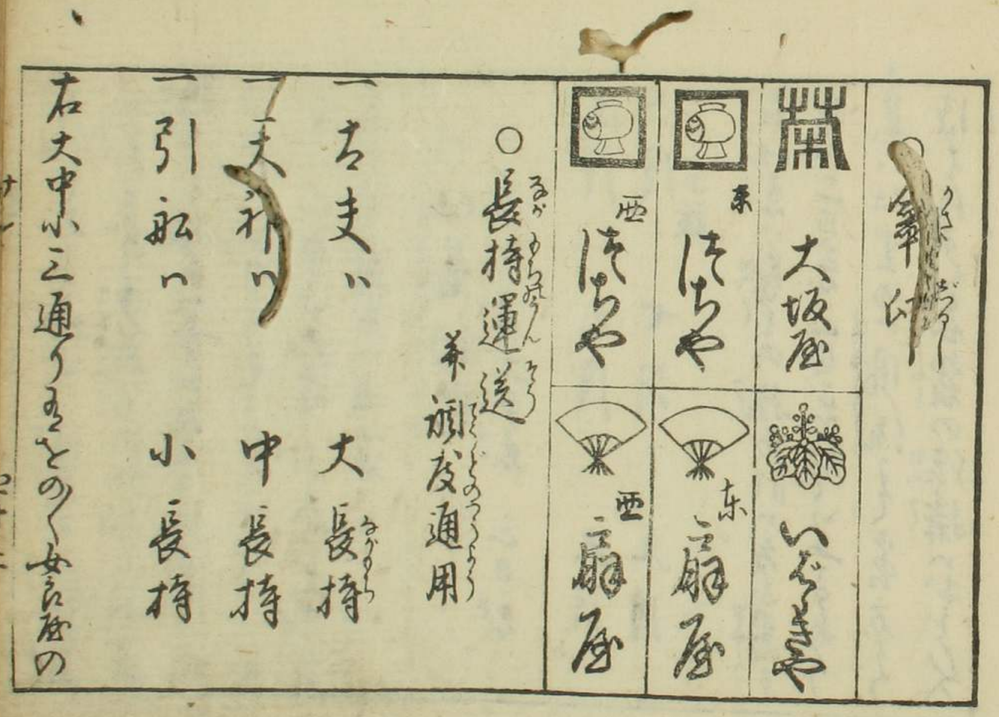
[illegible]理文句もこるる
[illegible]あるこ迄その[illegible]
[illegible]松山[illegible]名名迄
あげまき又い松山[illegible]
あまさありしもの[illegible]を書を
[illegible]女よ[illegible]くい[illegible]神ね意
の地[illegible]や著[illegible]百年に名をあげ
[illegible]女郎[illegible]あげまきハ別[illegible]
[illegible]風山い伝[illegible]の人や其業[illegible]
松山[illegible]極久を元日金蔵越
[illegible]理文句ハ作[illegible]なり
[illegible]の夜琴ハ[illegible]
[illegible]板を[illegible]く揚屋[illegible]
[illegible]事[illegible]元禄年中大坂
[illegible]人[illegible]町[illegible]

長五寸巾一方 今の助五郎てうさかばる
家
る也又其はなを使人の昼よそ髪小
十徳を著し竹の杖を孤昼とする
付にくふたかるを口をつひく和を見
孤昼とし 陽光のうち
そはと二品を和ゝみく作るろい
作志の発明也まん余い事無きま
ろうふをした

源氏和歌
あげまきふるぎ結をもとひてえ
ちかしとろろまるもあくるもん

後拾遺集
契りきかたみに袖をしぼりつる
末の松山波こすとは

信原基輔



定法を考へ門より夜具并料紙箱
弘めまゐらせ申すべき事の
揚屋へ女郎屋より揚せやる
仕長
喜係九度の新造しまゝ今大風呂
茂ふ白て揚屋へ通ふ

○仕着紙類

第二日目　二日目

正月　三月　又月
六月　七月　九月

右仕着い家くの揚あれば交ふ器
ふ小二日目三日目ものあり
茂八仕里の一風流まて客方ら
仕着の袋の結揃いおもく

第二日目　二日目と云る名月
八親方分の仕着式日出日より
出る迄二百目同じ仕着ものも
見者して二日目の夜始られ
あれば二百目者ものあるも
まて出る二百者ものあるも未の夜始
全盛世の女郎の着ものを

○身請門出

永語定り門分の日揚屋親方
の親新元帳の揚へ揚もて式い
後織初笠初紙孫紙をもて又
ものもの仕事
もこの後門あり家内一つ
一家あり揚屋料理小孫揚を
仕くし不世ものあり揚屋ら

ゆうすいとも
ゑんせのけーき

夜見せのてい
ひぞうえん町

来る事如何なるものかはしらず
裏破すげ笠さゝぬくあり夫より
揚屋まゝく又五車を出るこゝの
女郎迯あをひく家あるにまを見送
乃るまぐもあるに門まぐ張くしく見
そろるやうなし車どもゝ
以義式い大臣の威勢に弟子て花
美かぎりなし

○天神位階

小天神　見世天神
并

以天神といつる織もあり詩あり
先天神と詩いつるい天天神なり
左夫中たいぐ揚屋中出く茶屋
大いなる仏位の四方小天神と
いふなる位もおくこゝもも

其世天神とゝ居るいづれも便い
奥小妻し天神中と辰あ居るり
高津い京宿原と遠ひ天神織小
い日傘なし雨天ちれが天神も長柄
のかさをさしかまるを喜信れ屋
彩橋以後居迯と名附不知天揚屋
へ出るを但小天神ゝ下屋ふを人
も出迯ゝく揚小天神とゝく
揚女郎兼退迯

室晋舞　其ゝ角

まゝの額の褌や　こゝの月

○農子位階

并　糸問　紙洲　松島
高津　そい麻布とい麻布とい遠ひ

かうひを摺とは何郎ぶり其中よ
り別て伝授をし給あひよ
諸分まる新書ふまく廉をてい
摺女郎の四あくく摺女郎より摺式
う高所のちいは小天神ゆ号ゆ
かうひい又引ちゆとしかく混雑しう
ちて高澤の引ちゆ今ゆてい新し
ゆ摺ゆう又ゆ伝信のうち小
月の伝新の伝汐の伝と伝ありく
價のるトあいづきの曲張より伝伝
ゆ所ゆとおくべ月いつ新いつ
ニつ汐といつる松風の風より葉
出しうときゆむ高へゆるとき乃
あ面おを

○芸尽小郎情茶屋風俗

たいこ女郎ゆいろゆ揚屋系へ
ゆ仁在表の奥をと僧ふを高のゆ迄
琴三味線胡弓いゆもさるゆ
ゆいは女郎ゆ仁をめしをゆ
享保年中ゆ芸ゆ仁ゆる事
出来ゆうれいゆ一のさい女郎
い決ゆひ三味線をおをゆ
う迄ゆおをとゆ迄ゆ中ゆく
天女ゆ一ゆのゆいい女郎と遠ひ客
新ゆをゆゆるゆ仁ゆあくゆ仁女郎
と月ゆさ面ゆり

○仏難女郎一曲

育のうひゆの朗源愛ゆく今様
ゆう又いゆうり萩とうゆのゆ
ゆうく白粉ゆ拵女ゆゆうひ仁をうひ

[illegible]と作り唱歌を出り中興京洗
海界小日蓮宗の僧隆[illegible]と
[illegible]くてい山中[illegible]の下を法華[illegible]夜[illegible]
いつも唱とり[illegible]句[illegible]作[illegible]
[illegible]ひ出し[illegible]句[illegible]又又ひまなり
義柳い勿論所[illegible]みくもり[illegible]を
[illegible]くあそび[illegible]も[illegible]
しとやさしい俳諧の発句ふその
又句を立入[illegible]句ふ[illegible]

秋ハ[illegible]

伊丹　思貫

月夜[illegible]　いつも帰

[illegible]年中部[illegible]
[illegible]吉原[illegible]きぶ[illegible]

大ふ[illegible]万治[illegible]中大坂新町
[illegible]遊女郎一風流のうち
[illegible]の[illegible]作り自[illegible]
おとなふ[illegible]女郎[illegible]を[illegible]
して一曲[illegible]
撫ひ[illegible]
町[illegible]
[illegible]を世[illegible]新町のまど[illegible]
ふえ祿宝永の[illegible]
くあり[illegible]
いわく[illegible]
南津廓の[illegible]
[illegible]
浜[illegible]
[illegible]
[illegible]

西大門口
番所
そよう
面へ切べ
すみをへ出
名たゞき
めんろいや
二軒あり

つゞき
尼夜せ
ていの
以の位
丸の位
月の位
大天狗
小天狗
尼天狗

江戸吉原のあさぶし大坂新町のまづ紀ぶとくらし廓こと名和也

○陶嘆義吉別

紅葉赤の為もしらい官家の勅使を
えらびのうまんかく居しはるばるめん
い柿染の布長さ二丈三幅ありて
縫合ふ糸子葉の瓜結あり中比
より末代不易の勅許を拭て商
問い自分ふかくばること見遇原の
古実也高津の嘆分屋古い桃もも
京也もあり今俳波だうりあり
和結まく瓜結あるい新渡女郎と
いふこと山車そのうづめい大台
俗の衣の瓜結ふりおこりといふ
説もあることかく今い新渡のまるよい

和歌を結ぶ也

○和泉新吉別号

むかしより紙い一百君考を見せ分ふ
あまりまくへよりかどにうく賣
ト記ふ之あり室代和泉と
事を今めそい價もあ郎ふきいまも
たり奥よくいし

○虎由 猪

南津の虎い郭清原のといかしの
法ちびあり徒蓋子和泉清盛
六波羅ふ生屋のとき梅へ屋ふ
二百人虎の服風そいかしへい
虎ども三毛赤ふ云ふ也今い者
うどの威勢いかくばる其金風級

揚屋茶屋上り咄しの人よ来る時五
ふうつまりと会る也これ古代の
樹の枝りし西廻しりひたるふすぐく
行ふくも新渡の女郎は四もを
脱くたを丈識まぐよすむその也
新渡出るらしの加俳い廓出給
ありくいろ事也

○呼迎女敵實

正月　二月　三月　七月　九月
武月神月之除附も新渡出日
こ揚屋茶屋より匂ひ女子とく
女郎一人よ中居一人乙匂ひよ来
るこれも往古い毎ぐ出給
ぐ今い新ぐ左中日平出
乙高津のくるもの古実也

○翻を茅拓古彼不打由縁
芝居のかり武い紙を紙お撰名
大坂町中古彼打ぐ思る山新の
たいこ通り高西の大門の文字を
打やめ之賣坂へ口ばあぐ打を
山茶大坂中古彼うたもの習
るくいそれあるすとそくりくい
所の人よ高ねべし

○夜見世繁花

山廓開發の高屋夜見世おし
五年ぶり小延宝年まより西門
より十月毎るまぐく夜見世殺免
くく雲月神月二ヶ月い書限よ
東西の大門開居ぶそのち

享保年中小丸[illegible]月極月二ヶ月
[illegible]敷[illegible]ありて今い年中夜見せ
[illegible]白紙あぐむき繋[illegible]
[illegible]きあ[illegible]ろし

○限を張作法

商津の廓[illegible]府の[illegible]紙夜の美彩よ
曲輪中たいこうち口居者[illegible]入世[illegible]
人[illegible]をたいこをあ高中[illegible]を進世
大門口をあ[illegible]是たを張を[illegible]
たを張[illegible]この廓中揚屋茶屋の
[illegible]ぞめきの人くのあぎりひ[illegible]くの
[illegible]紙の光白日小[illegible]

廓の角先一ヶ所の
[illegible]

○
價値分

○
右丈　六括九反

○
天祢　二括二反

右天祢寸法壹とつゝ時と
・朋より午時と　拾丈反
・午時より暮と　拾丈反
・暮より夫刻迄　弐拾弐反

右見せ物のゝびとつゝて居宅ゟ
代賃ゝ取ル
・一座　三匁五分
又茶屋抱ゝ取ル
・一切　四匁二分

○藝子　武拾八匁
但し一本毫ゝ付ゝ
天神と唄ひ
茶屋抱ゝ取ル
・一切　三匁

○和茶　七百文
但見せ物びい　四拾文
加右の通の金額定い酒料ゝも更
但見世あそび一切ホい酒料
別の定めく
朝飯料理代　揚屋　三匁
茶屋　五匁五分
月酒料　月　六匁
月　三匁五分
出酒料雑用　月　四匁五分
月　三匁五分
但右酒料ハ酒ゝ付合之儀ハ下世話ハ
一ゝ振舞の節ハ酒雑用ゝ無ゝ
料理ハ別ゝ付ゝ別のるく
右之通の外雑用かゝる事ハ無
中の定ゝ同也

○絵日定見

正月
三ヶ日　四日　五日　六日
七日　九日　十日　十四日
十五日　十六日　廿日　廿五日　廿八日

二月
朔日　初午　二ヶ午　十五日
廿二日　廿五日　廿八日
かこひじん七日ゞ石

三月
朔日　三日　四日　五日
六日　七日　十六日　廿日　廿五日　廿八日

四月
朔日　八日　十五日　十七日　廿日
廿一日　廿五日　廿八日

五月
朔日　五日　六日　七日　八日
九日　十五日　廿五日　廿八日　晦日

六月
朔日　七日　十二日　十四日
十五日　十六日　十七日　廿日　廿一日
廿二日　廿四日　廿五日　廿七日　廿八日
廿九日　晦日

七月
朔日　七日　十日
十四日　十六日　晦日まく

八月
朔日　十四日　十五日　十六日
廿五日　廿八日　かこひじん七日ゞ石

九月
朔日　九日　十日　十一日　十二日
十三日　十四日　十五日　十六日　廿日
廿一日　廿二日　廿四日　廿五日　廿六日
廿七日　廿八日　廿九日　晦日

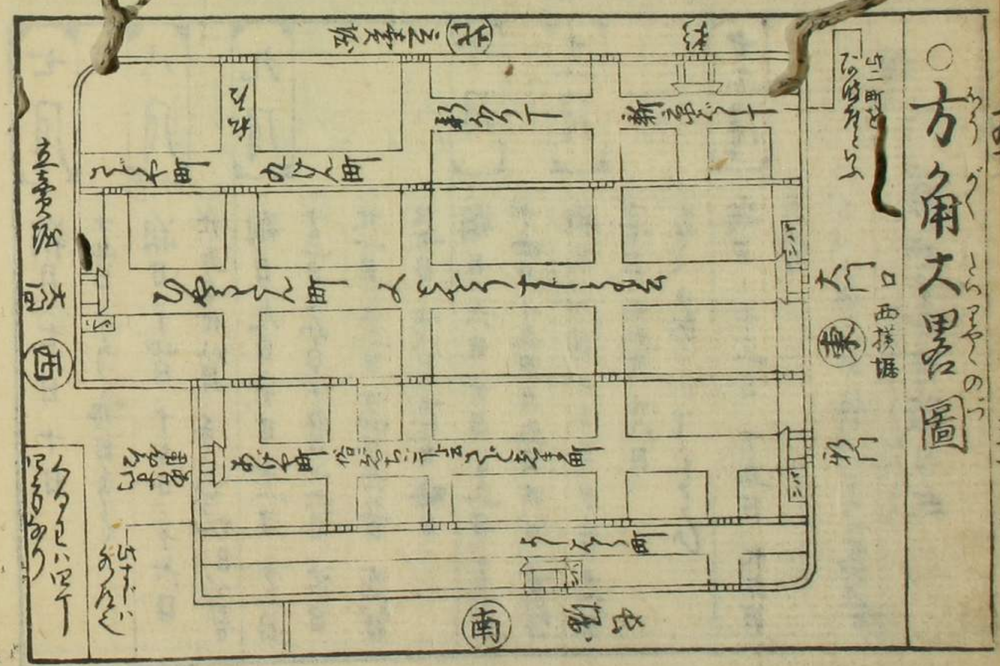
十月
朔日　六日　十日　十二日　十三日
十四日　十五日　廿五日　廿八日　亥ノ子

十一月
朔日　八日　十三日　十五日　十六日
十七日　廿五日　廿八日
かこ家くのすゝはき

十二月
朔日　十二日　十五日　廿五日
廿八日
かこ家くの餅つき節分

但し　庚申年中改日迄

○方角大略のの圖



名よせ乃部

ことうちで　西ノ　扇屋江戸節之濤

きまるこ分

きまるる戸　秋葉やちゃのの　妻ぎ乃　ゆくもまさの
るにて津　かつまきくの　宝ざさ　いまつこ
うき紅　うるえ小こう　ゑみがと　うごの
初むら乳　くちりさ　いそのと　いつを
搗うて　ちりさ　ゑむ乳　ちんよ　るのの
うゑしみ　ときさつき　ゆ世　まつの　がを
ゆづ風俗　まつえ小きん　長ゆ　よつま　いの
ゑもつ巻　ちりえいそのつえ　ゑ乃ま　ゑ乃ま　ゑ川
ゑのひめ　ゑ乃紅　ゑ川紅　せ川ふせや

ことうちで　堀屋利三郎

左支之分

琴 初音戸 [illegible]

琴 [illegible] 大國 カの 綱山

紫 [illegible] 八重紫

紅井 [illegible] 金吾

奥州 [illegible] 桁霧

大学 [illegible] 桁琴

天祢之分

きん [illegible] 大吉 大町 ふぎん

[illegible] [illegible]

[illegible]

東ノ 越屋敷七

天祢之分

高機 [illegible] 若さ [illegible]

八重霧 [illegible] 萩 [illegible] 大こ

[illegible] カや [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible]

[illegible] 亀こ 初紫

[illegible] 小こ [illegible]

[illegible] 大吉 [illegible]

東ノ 扇屋二帝玄湯

左支之分

老きぬ [illegible] 大吉 [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible]

天神うぢ

雜波津　きさの　ひでの　うこの

八〜ほ

二の町

大坂

須本屋熊次郎

ひるづる　万代　九重　宮ぬけ　花まき　立ちる

六いつ元　多代寿　君しろ　玄日　八重霧　庄ちき

ふぢえ　ふいだ　綾川　綾ちん　せ川　まさの　つるま　ねのら　さやま　まつの　いくせ　庄ぢ

ちらご所

和泉屋甚兵衛

ちを支ちく分

天神うぢ

花まき　ふいを　ふつく

かく八木　小まつ　中ぐり木　くまえ

常盤木　小そで　さんく き　うのえ

綾ちぬ　きよの　寿うう　むめの

ちらご所

大坂屋吉兵

ちを支ちく分

ひる絡　七綾　弱竹　泉ち　君　ぬ井　谷乃戸

絡ちし　いその　秋まる　いよの　ゆき元　むろの　きく絡　まつや　いしき　ちとり　寿祝　いぬき　まつま　よえら　ゆき元　むろの　きく絡　まつや　いしき　ちとり

ちを支ちく分

天神うぢ

綾屋吉郎兵衛

ふるけ沢　ふるさとよの　ひさつ
金　鶴　まつの　玉ゐ　ゐる松
こう　雄　東ゐ　岩さ沢　小さと
小田　ふもと　長　門　さとう
ロぐら　まさの　沢さと　そのぎ
ちゐぎく　きくこ　小　壁　きよと

ところどゝ　恒吉屋吉兵衛

天神うく分

ゆぐまた　ふるさと　みゝき木　カヤ
小むらき　ところの　大よど　いろろ
七うら　兼ゝぶ　たゝしま　うと

ところどゝ　上林屋伊兵衛

天神うく分

塙尾の　ふるもりた　朔ゝか　ところの

岩さく　大ゝぶ　長ゝく　ひでの
ゆ　國　ところ　大さ沢　大吉
義とう　ろはと　ところか木　いゝの
ろ沢い清　いさの　小ちゝ滝　りんど

ところどゝ　亀屋七左衛

天神うく分

いさ乃　ふるさと　七　曲　まきの
木ゝ沢　ちくさう　ゐうら　よゝせ
ゐ沢の戸　うゐめ　菱　浦　いまか
三うゝ　竹　沢　小む沢　らゐ
今ちと　亀ゝ屋　玉ゝ　ま　うそま
あ沢ゝ乃　小ゝと　小ゝきふ　ま屋
ちの沢　ふりの

ところどゝ　壁国屋太次郎

天神之分

長山　つまま　まつの

かこひの分

雄　にのくち　松ぐち　老ぐち　まつ山　木ぬ花　とうの翠　ちひの書

ちちご町　紀伊國屋平七

天神之分

紙うら　ちりはて　山　こまの

なのやなぎ　ろうこ　八重花　たちこ

かこひれ分

きい　まんよ　ちさと

ちちら　こたち　きてら井

ふしる　大よど

げいふの分

きま吉　二弦　石畳

ことちちで　上村屋平兵衛

天神之分

こよう畳　こまのこまき　とくこ

なのげまの花　ふつる大まき　いその

大たし　ひさの小ちさぶ　まさき

ことちちで　吉田屋太兵衛

天神之分

三つ浦　うろこくの三つ花　ちろこ

漁山　妻で　むつ　むろ花

ことちちで　淡路屋庄兵衛

天神之分

細しば　安こう　萩乃井　ろう花
なびと　そよの　友うら　このハ
漆れ井　うやの　藤さえ　ままさ
ゑくう　栗こう　玄小姓　ちゑさ
たるゑ乃江　らのえ　玉ちと　たろの
こちらせ　その

とろうち　瓶子屋甚左衛門

天神ろく

ゆうろう　郭たく　小むさえ　このの
後しま　後右　うろうら　とろさ
ゑるたと　その　ろちえび　まさの
八重藤　太こう　位の江　乃右
後とう　ろくの　ろちれく　くのぢ
のやざ後　ちちの　ろちの　りぢの
玄日姓　ふちぢ　ゑろうら　ろよの

ゑ代ち　うれえ　八たう　ろこ巫
釜　ム　ひさぢ　ろこう　小れ
ゑかゑハ　極れ

げいころく

さうく　ふうロ　あとど
ろうく乙　うるめ　くまえ

とろうろう　金橋屋平右衛門

かこひろく

きんご　ここうの
右　所　ち　うこ
藤さえ　たるさえ
かゑ姓　るげと
さんご　乙　世

新京だ所　摘蘆屋十八玄清

かこひそくぶ

ゑさき　せ川
まゝ世　まゝ傍
そくえ　初きく
さんご　とり糸

新京橋町　さかいや武兵衛

かこひそくぶ

ちやさえ　とりく
ゆ　ふだ年
琴うら　こさん

新京橋町　大坂屋仁兵衛

かこひそくぶ

書づる　まゝ世
ちゑぶろ　さんご

新京橋町　外屋已そ衛

かこひそくぶ

ふきら　柏木
ゑまゝ　ゆ
ちる乃

新ろろ町　車屋撞八

かこひそくぶ

初さえ　瀬川
ちゝ菜　さんご
きくゑ　長うた
とも

ところそ　かいでや嘉七

げいろそくぶ

ひるる　いこ女　こぐま
とへの　行乃　深まつ
ふきく　うるの　亀乃

ところ〳〵　山本屋菊松

げいこ名

ゆのとの　ゆまつ　ひ松
きゝれ　小夏　市松
花世　きゝ松　琴柱

ところ〳〵　藤屋儀兵衛

げいこ名

ちせ　ゆきを　まきは
ゆるた　ゆきの　こぎん
ゆるべ　ことこ　ゆ〳〵か
こぞく　いさの　ちやの

ちゝの　うさま　せい
そめの　さけの　ちゝ
とくれ　ひでの
たゝの　ゆこ

ところ〳〵　藤屋吾兵衛

げいこ名

さくや　ますよ　みゝう
吉まつ　吉まつ　小ゝる
春子　をげ松　万つま
十又　小つま　小つ女
ゝゝ吉　姫松　小ゝく
まつ枝　いさの　小雀
とくや　ゝゝ

ところ〳〵　近江屋久七

からひらく分

琴せ　久の
市九　市二
りんざ

このも
露さた
まう乃

とうとにて　大坂屋百松

けいこく分

みゑ　まうば
いさま　小つる
きんど　松
ひでまん　小まき
國まん　ちいと市

きよう〻
玄　の
ひさ乃
なと柳
いくせ

とうとう〻　日肥屋右玄清

からひらく分

黄ゑら　きく多　玉木

たまぎ
た見

よしの
ちとみ

まつた松
雪雲

とうとう〻　近江屋伊二郎

からひらく分

琴　ゑづと
ゑづる

けいこく分

まつ松
所の

まつかぜ
う　ゑ

とうとう〻　九屋玄次

からひらく分

ていう
いろう

小つる
まつた

いくせ
いづま

けいこく分

ひで松

ことうと　澤屋和兵衛
かこひく分
亀つる
やよ氏
ことうと　川徳屋長次
かこひく分
亀づる
紙しバ　亀さた
ろうご所　紙屋國屋次兵衛
かこひく分
こうら　ことうと
相見　紙弥
ふいさ　ちのぶ
けいみく分　こうら
古まり

ことうと　亀屋平兵衛
かこひく分
みやこ　松がえ
ふたう　亀まり
ことうと　松屋徳兵衛
かこひく分
姉ごえ　ちる香
ことうと　伊かや新兵
かこひく分
きの所　さんご
きんご　うた町

新京じ町　金橋屋左七

かくひらく分
たうを　つまう
まさゑ
ゑゐ子

とをぐ　酒屋若菊

げいみらく分

きんご

とをぐ　松井屋弥二郎

げいみらく分

坪く系　つまるまち

宋屋加兵衛

かくひらく分
ひなら　ちとせ
さうた
うゐる　坪弥

けいみらく分

安本　まつ川

とをぐ　石文字屋金兵衛

けいみらく分

る　ろ　美世　吉まつ
小まつ　金吉
亀づる　ちとせ

析屋徳兵衛

かくひらく分

とりへ　東雲
ふム　十帝

けいこく分

ゑま　小とを
ふむめ　こゝ乃

ろちご町　河内屋平二郎

かこひく分

なやぢ　こゝやこ

けいこく分

小ぢへ　せんよ　小ひる　まへま
いけき　小まけ　小こく行

こゝろ〳〵　河内屋源兵衛

かこひく分

つゞよ　中ゆム　こゝ東

ゝ乃　小ゝる　ゝ行書
やゝん　ゝゝんの

ろちご町　井筒屋宇兵衛

かこひく分

世しま　帝　芸
こゝろざ　祖　さい

けいこく分

いゝゝや　帝中ゆ
さゝえ　ゝ中ゆ

こゝろ〳〵　平壁屋久兵衛

けいこく分

さゝへ　小ゝゝ　井こゝゝ
小ゞん　かせん

ろちご所　京屋熱玄清
かこひろくゑ
琴屋　仲　繁　名山
ろちご所　京屋虎吉
かこひろくゑ
大たし　ふさの　いくみ
つるえ　義　代
新糸ちゝ所　弁屋弥太郎
かこひろくゑ
まゆよ　ひさの　まさえ
るにい　きんご
新糸ちゝ所　河内屋文左衛門

ろくゑ　かこひろ　義えた
とさ　るゑと
新糸ちゝ所　河内屋吉次郎
かこひろくゑ
まゆえた　細しば　つるえた
ぶんご　小　名糸　ちゑの
きんへご　小　柳　とのく
さんご　とり
細ちゑ　ちゑみど
新糸ちゝ所　木屋弥太郎
かこひろくゑ
いせの　ふくし沢　ふぐの
ふさの　ゆの中　うせん
きんご　かいと　柳ヶ戸

新京ち〜町　京ノ京屋平兵衛

かこひらく分

きぬまさ　すいの
ひるづる　通八橋
井とも　ちばけう

新京ち〜町　西ノ京屋平兵衛

かこひらく分

ふたの　ふさの
とよさく　ちりの芝

新京ち〜町　姉見やひで

かこひらく分

松ちゑ　なづま
井とも　いろう
ひるづる
ことの　ことうら

ろちご町　塩屋彩兵衛

かこひらく分　さゝの

ろちご町　天満屋平兵衛

かこひらく分　いろは

ろちご町　和泉屋九左衛門

かこひらく分　なや

ろちご町　今井屋平兵衛

かこひらく分

きんご　きぐ
ろ〜ま　小いせ
金　清

ろちご町　大坂屋長松

かくひらく分
かう　てるひの乃
ととろそ　綿屋与兵衛
かくひらく分
一疋　亀つる　きぬえ
いとの　岩さね　えもと乃
ととろそ　みの屋吉兵衛
かくひらく分
玉で　きよの
たま琴　いそ乃
彫物師　塩屋伊兵衛
かくひらく分
ふしもえ　亀まき　せ川

ととろそ　いさご
てるくら　まひの
彫物師　塩屋
かくひらく分
ととろきね　ととさみ　てるまひ
彫物師　丹波屋源次郎
かくひらく分
岩まひ　いせの
岩たし　てるせ　ふてる
彫物師　京屋兵衛
けいるく分
つるえや　ひさの　岩まひ
伊勢の　伊させ　てるる

うらん　長づる　ちどり
さとの　いハや
行まい　ちとろ

彩京たゝ町　**萩屋右兵衛**

かゝひらく分

松しま　小まつ　志ノ
掛とづる　琴うら　きくは

彩京近町　**大坂屋長兵衛**

かゝひらく分

まつム　とさ　か右

彩京たゝ町　**紀伊國屋武兵衛**

かゝひらく分

つム　ときさき　うゝハ

初ざゝ　きくは

右ハ名ハ安部ちんぞう名の
名ハ世退る出来出ゝ中ム

げい者うく分

あちこ町　**いなり見世**

行本松八　は　八尾八　日　文字八
は　義八　は　吾八

ときとゝ　**大黒屋こせ**

長沢東又弟　は　名八
は　彩又弟　は　濱弟

ときとゝ　**きゝ屋見せ**

行本庄八　は　友八　日　行八　日　達八

彩ゑり所　ゑるまやゑんせ

竹本姫様　は　用教　は　信

彩ゑり所　俳諧屋ゑんせ

竹本太夫　は　教吉

は　和七　は　嘉六

揚屋さくら

ゑちご所　浜本屋政次郎　は　ゑ清屋七次郎

は　浜本屋政次郎　は　河岡屋長三郎

九りん丁　山口屋吉蔵　九りん丁　伊吉屋吉兵衛

は　吉田屋繁八　は　井岡屋伝三郎

は　扇屋市七　彩ゑり丁　大和屋吉郎兵衛

彩ゑり丁　伊吉屋市次郎　ゑちご所　伊吉屋市太郎

ゑちご所　麦屋長之助